

日韓ワークショップの これまでの取り組みについて



井山 繁

一般財団法人 沿岸技術研究センター
研究主幹

1.はじめに

日韓沿岸技術研究ワークショップは日本の独立行政法人港湾空港技術研究所 (PARI)、一般財団法人みなと総合研究財団 (WAVE)、一般財団法人沿岸技術研究センター (CDIT) の3団体が協同して韓国海洋科学技術院 (KIOST) と合同ワークショップを開催することにより始まったものです。

港湾空港技術研究所は2001年から2010年までの間、計6回の日韓干潟ワークショップや国際沿岸防災ワークショップなどを通じて現在の韓国海洋科学技術院の前身である韓国海洋研究院 (KORDI) と協力関係にありました。

また、みなと総合研究財団 (WAVE) についても韓国海洋科学技術院 (KIOST) との間で2012年に沿岸技術分野の協力覚書が締結されるなど、交流がありました。

沿岸技術研究センター (CDIT) は2009年に韓国海洋研究院 (KORDI) と研究協力協定を締結したことをきっかけとして日韓沿岸防災技術研究ワークショップを韓国で開催し、その後は日韓で交互にワークショップを開催してきました。

個別にそれぞれ交流のあった日本の3団体が協同してワークショップを開催することとなり、2013年に初めて韓国で第1

回の日韓沿岸技術研究ワークショップが開催されることとなったものです。

2.ワークショップの概要

ワークショップでは、これまで日本、韓国の両国の講演者による特別講演や基調講演が行われ、それに引き続いて「沿岸防災」「沿岸管理」「沿岸環境」「技術開発・普及」の4つのテーマ別のセッションにおいて、各組織から発表に対し、活発な議論がなされるなどして運営されてきました。

具体的には、第2回のワークショップの基調講演では日本側から横浜港やMM21の開発の経緯が説明され、貴重な図面や写真を用いた講演は韓国からの来訪者や日本国内の技術者にとっても興味深いものとなっています。また、第7回のワークショップで発表された日本で甚大な被害をもたらした高潮・高波災害を踏まえた新たな設計思想についての講演では、近年の沿岸災害の激甚化とも相俟って、韓国側からも大きな関心が寄せられるなどしています。

また、4つのテーマ別のセッションでは、今後の災害対応に非常に有効である技術や社会的に大きな関心のある事案の解決や改善に向けた実用化方策など、各組織から最新の研究成果が



第2回日韓ワークショップ 安博士による特別講演



第2回日韓ワークショップ 講演者および関係者一同



第7回日韓ワークショップ 講演者および関係者一同

発表され、いずれの回においても予定の質疑応答の時間を大幅に超過するほどの活発な討議がおこなわれるなどしてきました。

3. 視察

これまでの日韓沿岸技術研究ワークショップではコロナによるウェブ開催の回を除いて、開催地付近で実施されている大きなプロジェクトに関する施設や沿岸技術に関わりの深い施設の視察が行われてきました。日本での開催の際には横浜港や神戸港などの歴史のある日本を代表する港湾やその周辺地域をはじめ、国際航路として重要な役割を果たす関門海峡などが視察場所となり、参加者は高い関心をもって見学しています。

韓国における視察では、近年注目される再生エネルギーの一つで沿岸技術とも関わりの深い、始華湖潮力発電所や大量のコンテナを荷捌きする釜山新港のコンテナターミナルなど、世界有数の大規模施設を視察し、参加者は多くの質問等をしていただくと報告されています。

第1回日韓ワークショップ 始華湖潮力発電所の視察



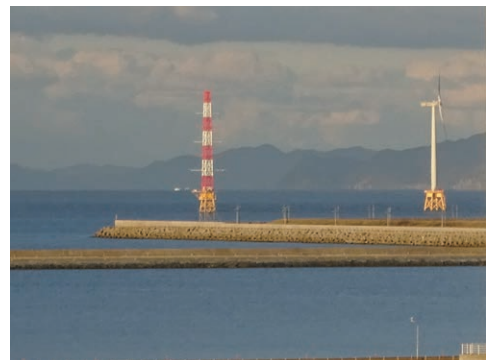
発電断面模型



発電中の水面状況

第6回日韓ワークショップ
関門海峡及び響灘洋上風力発電施設の視察

関門海峡



響灘洋上風力発電設備

4. おわりに

PARI、CDIT、WAVE、KIOSTの4機関の協力により、日韓沿岸技術研究ワークショップは2013年以降、これまでに9回開催され、今年の12月に予定されているワークショップで第10回の節目を迎えようとしています。本取組により沿岸域の研究開発に携わる日韓の技術者の交流が友好的かつ着実に進められてきたことは大変喜ばしいことであるとともに、今後も両国の沿岸域の技術力の向上に役立つ本取組を継続的に進めていくことで両国の発展に寄与することが望まれます。